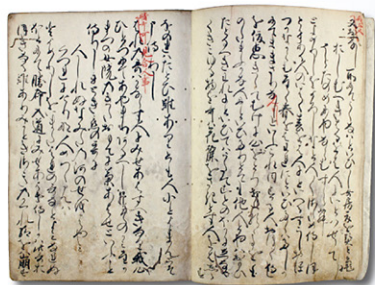


## 『無名抄』



函架番号 G-129。写本 1冊。縦 22.5cm × 横 16.5cm。袋綴（料紙の天地を糊で貼り合わせる）。椀紙。薄茶色の紙表紙の上に薄様の紙を貼る。表紙の左肩に「長明無名抄 飛鳥井榮雅筆」と打ち付け書き。墨付 71丁。一面 11行。章段の区切りは朱の合点で示し、見出しは漢字片仮名交じりで朱書する。最終の 2丁分は料紙・筆ともに別で、見出しも墨書。末尾に「右此一帖ハ飛鳥井榮雅筆也」との識語があり、室町時代後期の公卿で勅撰集撰者を命ぜられたこともある飛鳥井雅親（法名 栄雅、1416～1490）の書写本だと考えられる。一丁表に「黒川真前藏書」「黒川真頼藏書」「黒川真道藏書」「仁和寺/皆明寺」の朱陽印と本学の蔵書印（2つ）がある。

『無名抄』は、『方丈記』の作者として有名な鴨長明

の歌論的随筆。後鳥羽院の和歌所寄人として『新古今和歌集』の撰集にも関わった長明の和歌観を知る上でも、同時代の歌壇や歌人たちの有り様を捉えた資料としても、重要な作品である。成立は「関清水事」の段に「建暦の初の年十月廿日余りの比、三井寺へ行く」とあるため、建暦元年（1211）11月以降と見られるが、全体で約 80 段もの歌話を収めることを考えると、執筆期間は長期にわたるか。今からちょうど 800 年前、建暦 2 年（1212）3 月末に成った『方丈記』とも並行して執筆されたものだろう。『無名抄』の伝本中、最も古態性が高いのは東京国立博物館蔵海沢記念館旧蔵本（鎌倉期写、重要文化財）であるが、本書はこれに大変近い善本である。

（文学部日本語日本文学科 講師 木下華子）